

都民等との協働による動物との共生推進拠点の整備検討会における検討の視点と検討項目

検討の視点

・動物収容施設のマイナスイメージを払拭

・動物に興味がない人も気軽に訪れる地域の交流拠点

・都市部に立地することを踏まえた施設・機能

・動物福祉や獣医学の観点を踏まえた飼養管理

・ボランティア等との協働

・民間事業者の活用

検討項目

①動物福祉に配慮した飼養管理

- ・新施設に必要な飼養管理の機能と設備

(例)

- 飼養管理・運動に十分なスペース
- 治療設備
- 感染症対策

②関係者等との協働促進

(動物愛護に関心のある層に向けた事業展開)

- ・ボランティア、区市町村、獣医師会、警察、大学等と協働する取組
- ・動物飼養者の関心を惹く取組

(例)

- 動物の運動設備（ドッグラン等）の活用
- 飼い方教室の開催
- ボランティアとの合同譲渡会、講習会、シンポジウム、会議等の開催
- 災害時の動物救護活動

③都民に身近な施設になるための取組

(動物愛護に関心が薄い層も含めた取組)

- ・都民が動物との共生を理解する素地を醸成する事業

(例)

- 幅広い層に向けた情報発信
- 学習や情報収集ができる環境整備
- 近隣住民向け事業の実施（施設開放、地域イベント参加等）

④新施設の整備と運営手法等

- ・来所促進に寄与する施設設備
- ・業務委託の活用
- ・その他の民間との連携手法

(例)

- 都民、関係者が気軽に訪れ、地域の交流拠点となる設備
- 動物の収容・飼養管理、都民向け情報発信・普及啓発の一部委託

東京の地域特性を踏まえ、動物との共生推進拠点に関する各委員の意見を整理

◆ 都民にとって身近で親しみやすい動物愛護施設像

◆ 区市町村、ボランティア等と協働して「動物との共生」を推進する拠点となる機能

